❶

土と器が伝える文化

農村の面影が残る集落に点在する古墳の数々。その中でも亀ヶ森古墳は全長一二七mの前方後円墳で、平地部にある古墳としては東北最大のものである。それらは古代の生活様式や文化を今に伝えながら悠久の歴史ロマンの世界へと誘ってやまない。

古来会津は四方を山に囲まれ、その中央部が沼や湿地帯だった頃、その周辺に最初の人々の生活が営まれた。それは一万年を溯る旧石器時代のことであった。これに続く縄文時代八千年の暮らしの跡は坂下西部の山麓に広く分布し、土器や石器を見付けることができる。石器にはヒスイや黒曜石などがあり、当時の交易の広さを物語っている。

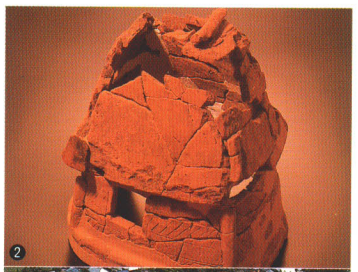
ムラができ、鉄器が普及し、食物が豊かになると、ムラとムラとの争いも始まった。強いものは弱いものを従えあちこちにクニがつくられていった。男壇遺跡・宮東遺跡・細田遺跡・稲荷塚遺跡などの周溝墓群はこれらのクニの指導者であろうか、周溝墓から出土した血の色に塗られた底のない土器は、北陸色の濃いものだという。

四世紀のはじめ頃、突如として巨大な支配者の墓がつくられる。古墳時代の始まりである。〝えみし〟の住む未開の地東北、さらに未開の地と考えられていた会津坂下町に東北第二位の巨大古墳「亀ヶ森古墳・鎮守森古墳」が存在しようとは想像もつかなかった。さらに最近の調査によって四世紀前半に溯る「杵が森古墳」「臼が森古墳」が調査されている。これら古式の前方後円墳のルーツは畿内政権に直結するといわれ、会津坂下町が〝えみし〟の住む未開の地ではなかったことが証明されようとしている。

会津坂下町はどこを調査しても掘立柱建物跡に突き当たるといわれている。発掘調査の結果によれば、律令制下の官衙を思わせるような建物跡が、大江古屋敷遺跡・青木遺跡・高畑遺跡・三本木遺跡などから発見されている。

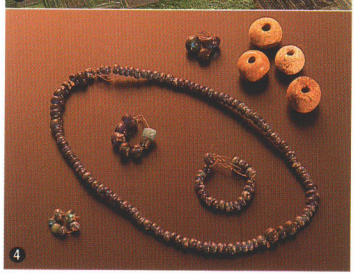
これらの遺跡と古文献をつなぐと、会津坂下町、ひいては会津の、さらに東北の歴史が見えてくる。『和名抄』にみる会津郡大江郷と大江古屋敷遺跡、蜷河荘と三本木遺跡などである。これらからは、輸入青磁や白磁、たくさんの硯、緑釉陶器などの発見が相次いでいる。

畿内の文化をいち早く受容した会津坂下町の古代人は、古墳時代・奈良時代・平安時代をとおして、これを積極的に吸収していった。今私たちが誇りにしている宇内の薬師如来・恵隆寺観音堂をはじめとした、会津坂下に花開く仏教文化もこのような歴史の延長上にあるものといえる。



❷

❸



❹

❺

❶人物埴輪の顔
❷家型埴輪
❸平地では東北最大といわれる青津亀ヶ森古墳（国指定史跡）
❹鬼渡横穴古墳出土玉類
❺縄文時代の石器
❻深鉢型土器（馬高式期）沢口遺跡出土品